令和5年度　津山市立勝北風の子こども園　　学校評価書

（　A　：　目標を上回った　　B　：　ほぼ目標どおり　　C　：　目標を下回った　）

園経営目標	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)			分析改善方策	学校関係者評価
			状況	評価	達成状況	評価	総合評価		
家庭と連携し合い基本的生活習慣の形成を図る	①保護者との情報共有と保育内容の可視化	･各歳児の月目標やドキュメンテーションで園児の育ちを可視化したクラス便りを毎月１回以上発行する。 ･送迎時の連絡、連絡帳、懇談等で保護者と情報共有したり子育て相談を実施したりする。 ・保護者が園生活や子どもの成長に関心をもつことができるよう、定期的に「風の子広場」において園生活や子どもの姿を写真で掲示する。	・3歳未満児は月に１回程度、3歳以上は月２回クラス便りを発行した。写真入りのエピソードと共に子どもの育ちををドキュメンテーションで分かりやすく伝えることで保護者と共有することができている。 ・クラスだよりや連絡帳で、子ども達が身の回りのことをやってみようとする姿を毎月エピソードなどと共に伝えると、家庭での取り組みにつながることもあった。 ・連絡帳を通して園での様子を伝えたり、送迎児に家庭での様子を尋ねたりすることで情報共有を行い、保護者と一緒に成長を喜び合えるようにしている。 ・必要に応じて懇談や教育相談を行っている。 ・定期的に「風の子広場」で園生活の様子や遊びの姿を写真で掲示して保護者に情報発信している。 ・園便りの裏面に園児の様子を写真で掲載し保育内容の可視化をした。	A	・クラス便りを月１回以上の発行を行うことができた。写真を使うことで保護者に見やすく子どもの育ちをわかりやすく伝えることができた。 ・送迎時や連絡帳で日々の様子をこまめに伝えたり、必要に応じて懇談や教育相談を行ったりして保護者と園で情報を共有することができた。 ・季節ごとに『風の子広場』を掲示することで遊びの姿を保護者に見てもらうことができた。 ・園便りの裏面に毎月園児の様子を写真で掲載し保育内容の可視化ができた。	A	A	・写真と共に子どもの成長を伝える工夫ができたことは､保育内容の可視化として有効であった。 ・次年度も歳児の目標に基づいた子どもの育ちをわかりやすく伝える便りの工夫をしていく。 ・風の子広場のタイムリーな掲示の仕方について検討が必要である。	A
	②基本的生活習慣及び望ましい生活リズムの定着	･PTA総会、保健便りや園だより、クラス懇談等で規則正しい生活習慣と生活リズムの重要性について啓発する。 ･勝北中学校区と連携したノーメディアウイークを実施する。 ･年3回　4･5歳児対象に｢チャレンジカード｣を実施し生活リズムの定着を図る。結果を保護者に知らせ保護者の意識を高める。	・乳児は、個々の幼児に合わせた食事量の提供や眠りについて情報を共有し、子どもの生活リズムに合わせて無理なく過ごせるように家庭と連携を図っている。 ・戸外で十分体を動かして遊び、気持ち良く午睡して生活リズムが整うように園生活を送れるようにしている。また、そのことを保護者に知らせて家庭と連携をとっている。 ・ノーメディアウィークは、園の取り組みとしてチャレンジカードに含めて実施した。 ・４．５歳児は、チャレンジカードを実施し、規則正しい生活習慣の定着につなげている。チャレンジカードを分析し、その結果をグラフを使って保護者にわかりやすく伝えることで保護者の意識を高めている。	A	・各便りやクラス懇談などで生活リズムの定着に対する大切さを伝えることができ、保護者の意識が高まった。 ・４．５歳児のチャレンジカードの取り組みは回を重ねるごとに子どもの意欲も増し積極的に取り組んでいることが結果として表れた。 ・冬季休業中に「ふゆやすみチャレンジカード」を実施して早寝と家庭での手伝いに取り組んだ。ほとんどの保護者が取り組んで良かったとの感想を記入しており家庭での意識が高まっていると感じている。 ・ノーメディアに関してはチャレンジカードに含めて実施した。	A		・基本的な生活習慣と生活リズムの定着ができていると感じている家庭が98%であった。引き続き大切なこととして保護者に啓発しながら園でも取り組んでいく。	
友達や身の回りの人との関わりの中で、自己を発揮し多様な感情を体験しながら、人と関わる力を育む。	③地域の方との交流等の計画的実施	･野菜の苗植えや花植え､さつま芋の苗植えと芋掘りを地域の方に教えていただきながら一緒に行う。 ･野菜の栽培活動と食を通して、五感を働かせて感じたり経験したりすることが増える。 ・地域の方に教えていだだき、お飾り作りや門松作りなど日本の伝統行事に親しむ。	・季節の野菜の苗植えや花の苗植え、芋掘り等、地域の方に教えてもらい一緒に行うことができた。活動の中で挨拶や会話を交わして交流を図り、地域の方を身近に感じる経験ができている。 ・野菜の世話や収穫を通して、やさいの匂いや色、形に興味を持ったり、味覚を楽しんで意欲的に食べたりしている。今後も子ども達の感性に働きかける活動の工夫をしていきたい。 ・愛育委員さんに来ていただき、毎月1回程度１・2歳児が交流を行った。 ・夏ボラ、勝北中学校の2年生の職場体験や3年生の保育実習受け入れなどを実施し人との関わりの幅が広がるようにした。 ・本年度新たに、つやま東幼稚園の5歳児と本園5歳児の交流を行い同年齢の沢山の友達との関わりや自己発揮の機会とした。 ・お飾り作りや門松作りは、地域の方に教えていただき実施できるように12月に予定している。	B	・地域の方に教えてもらいながら野菜の植え方を学ぶことができた。また、地域の方と交流できたことで、子どもたちも親しみをもって関わる姿が見られ、地域の方に感謝の気持ちを伝えたいという思いも芽生えた。 ・野菜の栽培では、世話をしたり野菜を近くで見て触ったり匂いを嗅いだり食べたりする経験ができた。また、自分たちで調理した物を喜んで味わう体験ができた。 ・つやま東幼稚園、勝北中学校、夏ボラ等の交流や受け入れ、また、愛育委員さんとの触れ合いが２歳児を中心に計画以上にできた。 ・収穫祭や焼き芋、お飾り作りや門松作り、とんどなどの行事を通して地域の方と交流を図ったり伝統行事に親しむことができた。	A	A	・地域の方や、多様な人と関わる経験が増えた。 ・多様な人と関わる中で自分の気持ちを伝えたり感情表現をしたりすることができた。 ・今後も多様な人と関わる経験を豊かにして、人と関わる力を育んでいきたい。	A
	④豊かな体験活動の実施	･読み聞かせボランティアや図書館司書による絵本の読み聞かせや図書館の利用をする。 ･地域へ出かけて行き､気づいた事や見た事を書き加えたお散歩マップを作ができる。	・絵本の日の読み聞かせでは、大型絵本や紙芝居など、様々な話を喜んで見ていた。マジックを準備してくださる方もおり、喜んで参加していた。 ・支援センターでの行事にも参加し、オカリナの演奏や絵本の読み聞かせを聞いている。 ・図書館司書による絵本の読み聞かせをしてもらったり、1人１冊ずつ絵本を借りたりしている。 ・園外散歩に出かけ、気付いたことを園外保育日誌に記入している。 ・お散歩マップに載せる写真を撮りためて、今後マップの作成をしていく予定。	B	・図書館の利用を定期的に行っている。読み聞かせや貸し出しをしてもらい、様々な絵本に触れる機会を設けることができた。 ・勝北ブッククラブさんの読みきかせを月１回実施できた。 ・ネイチャーゲームや陶芸教室、飼育サポート事業などを実施して子ども達に自然や地域の人材を活用した豊かな体験ができた。 ・地域に出かけ、写真を撮影したり気付いたことを職員間で情報を共有したりして、お散歩マップを作成することができた。 ・子どもたちが園外へ出かけて遊ぶことができる場所が少ないことが課題である。	A		・ボランティアと図書館利用は十分にできた。今後も地域の人材･施設を活用して豊かな体験ができるようにしていきたい。 ・地域のおさんぽマップを子ども達や保護者にも共有して活用していきたい。	
身近な環境や生活･遊びに好奇心や探求心をもって関わり、主体的に活動する意欲を育む。	⑤園内環境の見直しと環境構成図の活用	･園内外の環境の見直しと｢もの｣の配置の工夫ができ、幼児の心を揺さぶる環境構成となる。 ･夢中になって遊べる場と時間の確保ができる。 ･環境構成図による各歳児の遊びの共有と環境の再構成ができる。	・３歳未満児が３歳児以上児が遊んでいる場に行くなど異年齢児と関わりながら楽しむ経験ができた。今後も年齢をこえて遊べる環境の工夫について話し合いを進め、環境構成図を活用して、異年齢交流を行うようにしていきたい。 ・登園後すぐに子ども達が戸外遊びに興味を持ち、「やってみよう」と心動かせるように、また前日の遊びの続きが楽しめるように、朝のうちに環境の準備をするようにした。 ・戸外の環境構成について歳児間では話し合っているが、環境構成図を用いて各歳児間での共有ができていないため、今後は共有をしていく必要がある。 ・朝の流れを見直し、早めに戸外遊びができるように工夫した。	B	・２週間に１回、３上の職員が集まり、環境構成図を活用して話し合う時間を設け、環境の見直しや材料の分担などを共有することができた。それにより子ども達が心が動き、やってみようとする環境を構成することができた。 ・遊びの内容や月齢に合わせて場を確保した。また、戸外遊びの時間が十分とれるように生活の流れを見直したり、職員間で環境の準備を工夫したりして夢中になって遊べる場と時間の確保ができた。 ・環境構成図に気付きを書き込み、準備物や場所､動線などを再構成し、子ども達が喜んで遊ぶ姿に繋がった	B	B	・子どもの遊びの見とりを十分に行い、環境構成図を活用して次の遊びの環境構成に活かすことが必要である。 ・子どもの心が動き、願いが実現し遊びが継続できるように遊びの場と時間の確保を引き続きしていく。	B
	⑥教材研究と環境構成の工夫	･それぞれの遊びに適した素材や教材、幼児が試したり工夫したりできる教材などの研究ができ、保育に生かせる。 ･幼児が｢面白そう｣｢やってみたい｣と思える環境作りができる。	・手作り玩具を作成し、手先や体の発達が促せるように工夫したり、シール貼りやたんぽでスタンプ、にじみ絵など毎月職員間で子どもの姿から興味があることを考え遊びに取り入れたりしている。 ・夏の遊びの中では、片栗粉、春雨など様々な感触の物を取り入れ、経験の中で、少しずつ興味をもつようになった子どももいた。 ・季節ならではの遊びや自然物を使った遊びを取り入れ、興味や関心がもてるような環境をつくっている。 ・幼児が試したり工夫したりできる材料が足りなくならないように十分準備をすることが必要である。 ・それぞれの遊びに適した教材の研究は不十分なところもあり、今後改善していく必要がある。	B	・子ども達がイメージを広げて試したり工夫したりしながら作ることができるように、職員間で話し合い、分担して必要な材料を用意することができた。 ・園庭の環境構成を行い、自然物や材料、用具などの見直しや工夫を保育者間で話し合い、必要に応じて用具などを保育者が準備できるようになった。 ・子どもの声を拾いながら遊びの環境を整えることで、子どもの「やりたい」を実現できた。 子どもの姿に応じた手作り玩具を作成して、保育に取り入れた。	B		・発達に応じた教材研究を行い保育に活かすことで子どもの「やってみたい」「楽しい」につながる遊びになった。 ・職員間で連携して環境構成の工夫や環境の見直しを今後も継続していく。	